

 第31回ふくおか県民文化祭2023

令和5年

10月22日(日)

午後2時 開演(午後1時 開場)

柳川市民文化会館

福岡県柳川市上宮永町43番地1



能
狂言
羽衣
附子

野村
万禄

狩野
了一

柳川市民文化会館「Suito(水都)」
第二回喜多流『水都柳川能』公演



この事業は、宝くじの収益金を活用して実施しています。

入場料／全席指定席

前売り ¥4,000(当日 ¥4,500)

¥3,000(当日 ¥3,500)

チケット販売

- 柳川市民文化会館 TEL 0944-73-7777
- 柳川市文化協会〔井上〕携帯 090-5927-7426
謡曲部 〔山崎〕携帯 090-7476-8083
- 大牟田喜多会 〔下川〕携帯 090-3079-1917
- 福岡県喜多流教授教士会
久留米支部 〔中村〕携帯 090-8624-1903
大牟田支部 〔川崎〕携帯 090-7115-2158
- 喜秀会事務局 〔狩野〕TEL 096-325-6686
FAX 096-325-6690

主催 ふくおか県民文化祭『水都(suito)柳川能』実行委員会 事務局 (中原)携帯 090-1347-7711
ふくおか県民文化祭福岡県実行委員会、福岡県、福岡県教育委員会、福岡県文化団体連合会、福岡県障害者社会参加推進センター

後援 朝日新聞社、西日本新聞社、毎日新聞社、読売新聞社、NHK北九州放送局、NHK福岡放送局、RKB毎日放送、FBS福岡放送、九州朝日放送、テレQ、テレビ西日本、FM 福岡、CROSS FM、LOVE FM、九州旅客鉄道株式会社、西日本鉄道株式会社
柳川市、柳川市教育委員会、柳川市文化協会、福岡県喜多流教授教士会(福岡・久留米・大牟田)、柳川商工会議所、柳川市商工会、福岡有明海漁業協同組合連合会、柳川農業協同組合、(一社)柳川市観光協会、大牟田喜多会

〈解説〉 狩野祐一

番組

〈金春流〉

舞囃子

胡蝶 立花笙子

大鼓 白坂信行 太鼓 田中 達
小鼓 古田寛二郎 笛 浦 政徳

狂言

附子

シテ(太郎冠者)

野村万禄

アト(主)
吉住 講
小アト(次郎冠者)
杉山俊広

後見 吉良博靖

〈休憩二〇分〉

シテ(天女)

狩野了一

15:20
能

羽衣

舞込

ワキ(漁夫白龍) 飯富雅介 大鼓 白坂信行 太鼓 田中 達
ワキツレ(漁夫) 岡 充 小鼓 古田寛二郎 笛 浦 政徳

後見

中村邦生

大島衣恵

地謡

北原浩吉 大島輝久
狩野祐一 内田成信
塩津圭介 金子敬一郎
井上勝晴 栗谷充雄

附祝言

終演予定 午後四時三十分頃

※上演中のビデオ撮影・録音・写真撮影は固くお断りいたします。携帯電話はマナーモードにするか、電源をお切りください。その他の音のなる機器のご使用はお控え下さいませ。

附子 あらすじ

山一つ向うまで出かける主人は、太郎冠者と次郎冠者に留守番をいいつけます。主人は二人に桶を見せ、この中には附子という毒が入っていて、その方から吹く風にあたっただけで死んでしまうくらいだから、絶対に近づかないようにと言いついて出かけます。しかし、だめだと言われると、やってみたくなるのが人情。

二人は、こわごわ桶に近づき、中を覗き込みます。すると、中身は附子ではなく、おいしいような砂糖だったのです。二人は我慢できず、つい砂糖を口にしてみたい、とうとう全部平らげてしまいます。そして、言い訳のために主人秘蔵の掛け軸や、天目茶碗を壊して、大声で泣きながら主人を待ちます。二人は、驚き怒る主人に、わけを話すのですが……。

羽衣 あらすじ

駿河の国(静岡)、三保の松原に住む漁師の白龍(ワキ)が長閑な浦の景色を眺めていると、松の枝に美しい衣が掛かっているのを見つめます。持ち帰って家の室にしようとしたところ、そこへ一人の女性(天女)が現れ「それは天人の羽衣でたやすく人間に与えるものではない」と衣を返してほしいと話しますが、白龍は、衣を返そうとはしません。

「衣がなくては天に帰ることが出来なくなります」と嘆き悲しむ天女の様子を見て、白龍は「衣を返す代わりに天の舞樂を奏して見せてほしい」と、頼みます。

「衣がなくては舞うことが出来

ません、先ず衣を返して……」衣を

返せば舞を舞わずにそのまま帰っ

てしまうだろう」と疑う白龍に「疑

う心は人間だけのもので、天に疑

いなきものを」と答える天女の言

葉に、白龍は恥じ入り衣を返し、天

女は喜んで羽衣を身にまとい、美

しい月世界の神秘の舞を舞いなが

ら、地上には数々の宝を降らし、夕

暮れの霞の中を富士の高嶺へと空

高く昇っていくのでした。

会場案内図



〒832-0058 福岡県柳川市上宮永町43番地1

TEL 0944-73-7777